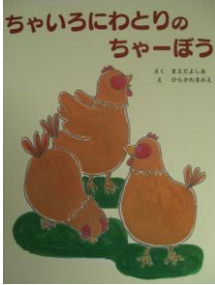


絵本で大事なものは絵か文か

★



絵本「ちやいろにわとりにちやーぼう」は、良書で、読み聞かせデビュー好適作品である（と誰一人、女房さえも言ってくれない。しかし、自分ではそう思っている）が、わが社の不良在庫になっている。今年も会社の決算時期になり、この年1年で「ちやーぼう」が何冊売れたか棚卸作業。しかし、数えるまでもない。キャッシュでない資産は、会社には要らない。良書なのに“不良”在庫とは是如何に？良い味なのに味千ラーメンと云うが如し！

★★

素人が、勢いで絵本を作ってしまう際、気をつけなければならないことがある。絵本は、絵よりも文が大事だということ。もちろん、良い絵でないと話にならないが。

下の絵は、主人公のちやーぼうたちが、飼い主である奥さんの目を盗んで庭から逃げ出し、まだ見ぬ「遠いところ」を目指して冒険に出かける場面。この絵につける文が、以下の通りだったら、どうだろう。絵の上の文と下の文を比較してみると……。

ちやーぼうは、歩いて、
遠いところへ行ってくる。



ちやーぼうは歩くよ。歩いて
遠いところへ行ってくる。

さあ出発しよう。うちの奥さんが
洗濯物を干している間に。



奥さんに見つかるな。見つかったら運動場に閉じ込められる。

ちやーぼうは、垣根から
飛び降りる。



それー。やったー。
ここから先は未知の世界。

絵の上の文よりも、下の文の方がよい。なぜかという、上の文は絵の解説をしているからダメ。絵に思い入れのある素人さんは、つつい絵の解説を文にしてしまう。下の文は、ちやーぼうと飼い主の関係が書かれているからよい。「ちやーぼう」が出来る過程で、実際にこのように文が変わっていった。

★★★

素人が、勢いで絵本を作ってしまう際、気をつけなければならないことの前、気がつかなければならないことがある。親兄弟、親戚、仕事先、……お願いして本を買ってくれる人は、せいぜい50人だということ。 (それにしても、こんな良書がたったの1,000円。)